

◆授業設計のポイント◆

- ・ 生徒の実態把握と学習活動の工夫
- ・ 対人関係を築くための手立ての工夫
- ・ 生徒が学びを振り返る工夫

自立活動学習指導案

対象者 自立活動グループ（男子2人，計2人）

場 所 総合学級3組教室（1年校舎1階）

授業者 教 諭 新 西 祥 文

1 活 動 名 になりたい自分像（マンダラチャート）を作成しよう。

2 活動について

(1) 活動設定の理由

本グループは，知的障害特別支援学級の3年生男子2人で構成されている。入学時から意欲的に楽しく学校生活を過ごしている。生徒Aは，将来，高等特別支援学校に進学し就職したいと考えている。非常に真面目な生徒で基本的な生活習慣は身につけている。学習面においても文字を丁寧に書くことができたり計算問題に繰り返し取り組むなど学習に対する意欲も高い。しかし，定規やコンパスを使って図形を正確に書くことや，作業でテープやステープラーを使う場面などで上手く活動できないことがある。また，吃音があり自分の思いや考えを上手く伝えることができない困難さがある。生徒Bは，将来，漁師になりたいと考えており進学希望も水産高校をはじめ専門技術を学べる進路先を自ら調べている。明朗活発な生徒で，自分から積極的に人の輪の中に入ろうとしたり，関わろうとすることができる。また，自分の気持ちを相手にきちんと伝えようとする意思も強い。その一方で相手の気持ちを考えず表現してしまい，友達とトラブルになることがある。集中する力が持続せず学習面においても困難を抱えている。また，作業において手先は器用だが丁寧にを行うことが苦手である。

本活動では，本校で取り組んでいる「マンダラチャート」の制作を通して「他者との関わり」や「自己理解」を高めることをねらう。具体的には，「他人の意見を聞いて意見交換をする」ことや「友達と協力して制作する力の育成」を行うことで子どもが普段の授業や学校生活の流れの中で意欲的に活動し，成長できるものとする。

生徒達は3年生になりこれから社会に出ることに現実味が生まれ精一杯学習している。今回の活動は「になりたい自分像」に特化しているが，今後生活面等にも取り組んで行き，継続して活動していく。そして，マンダラチャートの項目が増えることにより自分のできるようになったことを確認できたり，つまりいたときに目指すべき自分の姿を確認することができたりすればと考える。この活動で作成する「マンダラチャート」が生徒達が上手く生活できるためのハンドブック的な存在になれば幸いである。

(2) 生徒の実態

【生徒A】

①生徒の実態

- ・ 気が優しく非常に真面目な生徒なので、自分の意見を表に出せず、相手の意向に合わせる傾向がある。
- ・ 明確な意思表示をすることは、安心できる環境ではできるが交流学級では難しい。
- ・ 吃音があるため相手に気持ちが伝わらず、ストレスを抱えることがある。
- ・ 理解できていることを早合点したり、自分の間違っただけを修正することが難しい。
- ・ 心配性で、被害妄想が強く大きな声を出してしまうことがある。
- ・ 作業学習において道具を効率的に使うことが難しい。



指導目標（優先目標）
友達と楽しく意見交換しながら制作活動を行うことができる。



	健康の保持	心理的安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
		(1) 情緒の安定 (2) 状況の理解と変化への対応	(2) 他者の意図や感情の理解 (3) 自己の理解と行動の調整 (4) 集団への参加の基礎		(5) 作業に必要な動作と円滑な遂行	(5) 状況に応じたコミュニケーション

具体的な指導内容の設定	
制作活動を通して、友達と楽しく会話をしたり道具を安全に効率的に使用したりできるようにする。	なりたい自分を考え、人に伝えたり楽しく会話をしたりすることができるようにする。

【生徒B】

①生徒の実態

- ・ 明るく活発な生徒だが、友達との関わりの中で、自分の言動により相手はどう思うか気付かないことがある。
- ・ 気分には波があり、集中できない場面が見られる。
- ・ 楽しいことに夢中になってけじめをつけられないことがある。
- ・ 活発に意見を言うことはできるが、人の話をじっくり聞くことが苦手である。
- ・ 手先は器用だが、丁寧な作業が苦手である。
- ・ 自分のペースで行動してしまうため、時間を守れないことがある。



指導目標（優先目標）
より良く生活するために他人と意見交換をしたり、制作ができるようになる。



	健康の保持	心理的安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	(1)生活のリズムや生活習慣の形成	(1)情緒の安定	(2)他者の意図や感情の理解 (3)自己の理解と行動の調整 (4)集団への参加の基礎			(5)状況に応じたコミュニケーション

具体的な指導内容の設定	
制作活動を通して、友達と楽しく会話したり丁寧に安全に作業を行ったりすることができるようにする。	なりたい自分像をしっかりと考え、人の意見を聞いたり意見交換したりすることができるようにする。

3 活動の目標

- ◎ なりたい自分像（マンダラチャート）を作成し、より良く生活するための方向性を見つけ、対話を通じてコミュニケーション能力を身に付ける。
- (1) 人の意見を参考に意見交換を行い、自分の考えだけでなく友達の見解や話し合ったことを参考にし、より良い自分像を考えることができる。
- (2) これからの自分の目標を考え、マンダラチャートを友達と協力して丁寧に制作することができる。

4 指導計画（全7時間）

次	学習内容	時数
1	これまでの自分を振り返ってみよう。	1
2	大谷翔平選手の「目標達成シート」を見て感想を發表しよう。	1
3	「セルフエスティームが高い人の特徴」を参考になりたい自分を考えてみよう。	1
4	なりたい自分像（マンダラチャート）の項目を選定しよう。	1
5	なりたい自分像（マンダラチャート）を作成しよう。（本時6/7）	2
6	おたがいのマンダラチャートを見て感想を發表しよう。	1

5 本時の実際

(1) 目標（評価規準）

① 全体目標

制作活動を通して楽しく会話したりコミュニケーションを図ったりすることができるようになる。

② 個人目標

生徒A	ア 自分自身を考え、人と意見交換できるようになる。 イ 道具を安全に使い作業することができる。
生徒B	ア 人の意見を聞き自分の考えを發表したり意見交換ができるようになる。 イ 道具を丁寧に安全に使い作業することができる。

(2) 授業づくりの視点

ア 生徒の実態把握と学習活動の工夫

研究の視点1

今回は対象となる生徒が3年生ということもあり、過去2年間の学校生活での実態も加味して自立活動を行う。学校生活における様々な場面の作業の中で苦手とする分野の克服を考え、制作活動を行うと共に本校特別支援教育で取り入れている「マンダラチャート」を作成し、なりたい自分像を明確にし、自分自身で表現し所持することでいつでも自分自身の言動を確認できたり、目標を持って生活でき、汎用的な資質能力の育成につなげていく。

イ 対人関係を築くための手立ての工夫

研究の視点2

作業を役割分担ですることにより、自分の苦手な作業は助けをもらったり、得意な作業に関してはアドバイスをしてあげたりするなど、共同作業によって対人関係を築くことができる場面を設定する。また、お互いの作品を評価し合い、良かった点を認め合うことで自己肯定感を身に付けさせる。

ウ 生徒が学びを振り返る工夫

研究の視点3

「マンダラチャート」を有効に利用し、常に所持しておくことで授業中はもちろん、普段の生活の場面においても振り返る事ができるようにする。また、定期的に生徒たちと確認を行い、できるようになった項目は新しい項目と変更したり、なかなかできない項目については枝葉を増やしていき達成可能な項目に変更したりすることでさらに生徒たちの成長につながると考える。

(3) 本時の展開

過程 (分)	主 な 学 習 活 動	指導上の留意点および生徒の活動の様子、および支援の手立て ◎ 評価 ※授業設計の工夫	
		A	B
導入 7分	1 はじまりの挨拶をする。 2 前時の学習を振り返り、本時の学習目標を設定する。 マンダラチャートを協力して完成しよう。	- 姿勢を正して座り、話し手の目を見るように言葉掛けをする。 - 前時の学習を振り返り、前回までに作成したパーツを確認し、自信を持って本時の学習に取り組めるようにする。 - 本時の学習を知り、学習に対し意欲が持てるようにするために音読する。	
	3 個別の目標を考えて書く。	- 前回の学習と作品を教師と確認し、今回の目標を立てる。 - 自分の目標を教師と確認してワークシートに書き込む。	- 前回の学習と作品を確認し、今回の目標を立てる。 - 自分の目標をワークシートに書き込む。
展開 35分	4 マンダラチャートを作成する。 ・ラミネート係と切る係に分けて作業を行う。 (1) なりたい自分像の項目用紙をラミネートする。A (2) 枠を基準に切り取る。B (3) 両面テープを切る。A (4) 両面テープ切り取ったパーツに貼る。B (5) マンダラチャートに貼り付ける。A・B	- 自分の選んだ項目の優先順位を考えさせる。 - 作業用具を安全に使えるように支援する。 視点1 視点2 ※ 自分の決められた係の仕事を精一杯に取り組み、パートナーと意見交換しながら作業を進める。	
	5 出来上がったマンダラチャートをもとに、なりたい自分像を発表する。	- A君⇒ラミネートフィルムにきちんと原稿を挿入し、ラミネートする。 - B君⇒A君に作業を依頼し、作業のサポートをする。 - B君⇒道具を効率的に使ってラミネートされた作品を切り取る。 - A君⇒B君に作業を依頼し、作業をサポートする。 - A君⇒両面テープをパーツに合わせて切る。 - B君⇒A君に作業を依頼し、作業をサポートしながら切り取ったパーツに両面テープを貼り付ける。 - 自分のマンダラチャートに順序を考えてパーツを貼り付けて完成させる。 ◎ 自分の言葉で仕事を依頼したり、相手をサポートすることができたか。 - 枠にきれいに貼り付けられるように支援する。 ※ お互いの作業を見ながら教え合って活動する。 視点1 視点2	
終末 8分	6 本日の活動を振り返る。	- 自分の反省を記入し、振り返る。 ※ 友達との作業と話し合い活動を振り返り、評価をする。 視点3	
	7 次時の説明	次時の説明を集中して聞く。	
	8 終わりのあいさつをする。	◎ 本時の具体的な頑張りを挙げ、賞賛の言葉掛けをする。	